

平成18年度に実施する研究内容

浅海環境部

総括研究管理員 三津谷 正

今年度は、三津谷のほか、今井主任研究員、小野寺主任研究員、高坂技師、須藤非常勤労務員の5人で、陸奥湾の海況と漁場環境の調査、そして貝毒調査などを主要な課題として、関連する研究に取組んでいきます。

また、昨年度から、海況自動観測システム（ブイロボット）の更新工事を進めており、今年度は平館ブイと東湾ブイを新しくし、11月頃には本格運用を開始できる見込みです。

なお、新システムには、毎時の観測結果をインターネット上で速報する機能もあり、すでに運用しております。この情報を見る方法などについては、増養殖研だより本号に「新しいブイ観測情報のお知らせ」として載せております。携帯電話からも利用

できますので、ホタテガイ養殖管理作業などに役立てていただきたいものと思います。

その他の調査結果や観測結果についても、ひきつづき各種情報を発行するほか、当所のホームページにも載せますので、参考にしてください。

1. 浅海定線調査

陸奥湾の水温などの現況と動向の把握を目的に、試験船「なつどまり」（山田船長ほか5名乗組み）により、毎月1回、定期的に海洋観測を行います。（今井主任研究員ほか）

2. 漁場環境監視調査

陸奥湾の漁場環境の監視と保全のための基礎データ収集を目的に、水質調査（月1回）と生物モニタリング調査（底質と底生生物調査、年2回）を行います。

なお、陸奥湾の水質・底質は昭和54年の同様調査開始以来、大きな変化がなく、概ね良好な漁場環境が保全されているものとみられます。但し、

引き続き「陸奥湾を汚さずに利用する」ことが大事だということは言うまでもありません。(今井主任研究員ほか)

3. 海況自動観測

海況自動観測システムを運用し、陸奥湾の水温、塩分、流れ、溶存酸素と洋上の気温、風を毎時連続観測します。新システムに移行後は、流れの観測が強化されるほか、植物プランクトン量の目安となる蛍光強度の観測も加わります。これらの観測結果をもとに、陸奥湾海況情報などを提供します。また、観測結果を解析し海況予報技術研究を進めていきます。(小野寺主任研究員ほか)



ほたて貝部

総括研究管理員 小坂善信

4月の人事異動により、ほたて貝部のメンバーにも交代がありました。鹿内技能技師の代わりに川村技能技師が魚類部から配置替えになりました。留任の小職、吉田主任研究員、山内技師ともどもよろしくお願ひします。

今年度もホタテガイ増養殖の諸問題だけでなく、売れるホタテガイ作りのためにも取り組むことになりましたので、昨年同様よろしくお願ひします。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1. ホタテガイIT増養殖推進事業

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施し、各種情報を提供します。(山内技師ほか)



魚類部

部長 工藤敏博

平成18年度は、中西研究管理員、小泉技師、廣田技師、鹿内技能技師とともに業務を行いますのでよろしくお願ひします。本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

1. 資源増大技術開発事業(まだら)

マダラの栽培漁業化を図るため、良質種苗の安定的量産と適正な放流技術を確立します。(中西研究管理員ほか)

2. 資源増大技術開発事業(まこがれい)

第5次栽培漁業基本計画で栽培漁業対象種に選定されたマコガレイについて、種苗生産及び放流

4. 貝毒発生監視調査

本県沿岸域の二枚貝(ホタテガイやムラサキガイなど)の下痢性貝毒とまひ性貝毒による毒化状況や、毒化原因プランクトンの出現動向を調査します。ホタテガイの対EU輸出の条件となる生産海域モニタリングも行います。

貝毒の最新の機器分析法を用いた新たなモニタリング手法の開発試験も進めております。成果がまとまってきましたので、来年度を目処に、実用的な毒化予測手法、すなわち、ホタテガイなどの出荷自主規制の開始や終了時期をできるだけ的確に予測する方法の開発を目指しています。(高坂技師ほか)

2. 海面養殖高度化推進対策事業

養殖付着物(特にユウレイボヤ)の付着回避・防御技術の開発を行います(吉田主研ほか)

3. ホタテガイによる環境モニタリング法に関する研究開発

ホタテガイの殻体運動を測定することによって環境変化を捉える方法を開発します。(吉田主研ほか)

4. 美味しいホタテガイ生産手法開発試験(新規事業)

消費者が美味しいと感じるホタテガイを作る養殖方法を開発し、青森県のホタテガイのブランド化を図る。(吉田主研ほか)

5. 活貝活力延長技術開発研究事業(新規事業)

ホタテガイ活貝の市場シェアの拡大と安定化のための競争優位の活貝供給体制を確立するために、活貝活力延長技術の開発を行う。(山内技師ほか)

技術の開発に取り組みます。(工藤部長ほか)

3. うすめばるトータルプラン推進事業・資源添加調査事業

ウスメバル資源の回復の一方策として栽培漁業化の可能性を探るため、種苗生産及び放流技術の開発に取り組むとともに養殖の可能性を検討します。(小泉技師ほか)

4. きつねめばる資源増大技術開発事業

第5次栽培漁業基本計画で栽培漁業対象種に選定されたキツネメバルについて、種苗生産及び放流技術の開発に取り組みます。(小泉技師ほか)

5. 海産魚類防疫巡回指導事業

海産魚類の増養殖時における魚病蔓延を適切に防止し、被害を最小限に止めるための指導・検査等を行います。(中西研究管理員ほか)

磯根資源部

部長 桐原 慎 二

仲村総括研究管理員は定年ご退職され、長根主任研究員がふるさと食品研究開発センター、佐藤技師がむつ水産事務所にそれぞれ転出いたしました。平成18年度には、山田嘉暢主任研究員、高橋進吾主任研究員、小向貴志技師を迎え、佐々木非常勤労務員、工藤非常勤労務員とともに、以下の試験研究を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

1. 日本海沿岸の藻場造成と磯根資源維持管理技術の開発

ハタハタの産卵場、エゴノリの着生基質、ウスメバル稚魚の育成場として、本県日本海沿岸漁業生産の上重要な役割を果たしているホンダワラ類藻場の造成技術を検討します。また、クロモ、アカモク、ツルアラメなど地域の特産品となる海藻について養殖技術を開発します。関連事業：岩崎漁港自然調和型事業調査（岩崎地先）、前潟関連調査（車力地先）、ほんだわらが育む豊かな海づくり試験（大戸瀬地先）、海藻の幸による清らかな海の里づくり試験（深浦町地先）、多機能静穏域関連調査（大戸瀬地先）

2. 陸奥湾沿岸の藻場造成と磯根資源維持管理技術の開発

アイナメの産卵場、カレイ、メバル、カニ類の育成場、ナマコ、ウニの餌料として漁業生産の上

重要な役割をもち、また、水質、底質浄化機能を通して市民生活にも不可欠な役割を果たしている陸奥湾沿岸のアマモ類藻場を造成する技術を開発します。また、近年価格上昇に伴い漁獲量が増加したナマコについて、安価で大型な人工種苗量産技術を開発すると共に、資源管理手法を検討します。関連事業：陸奥湾スゲアマモ藻場移植調査（川内地先）、ほたて貝殻を活用した豊かな海づくり事調査（平館、野辺地、脇野沢、大湊地先）、ナマコ資源の培養による清らかな海の里づくり試験（川内地先など）。

3. 津軽海峡－太平洋沿岸の磯根資源維持管理技術の開発

コンブ漁場、アワビ、ウニの餌料として、津軽海峡から太平洋沿岸で重要なコンブ藻場について、効率的な「磯焼け」回復技術を開発するとともに、磯根資源や漁場の管理手法を検討します。また、コンブ、アワビ、ウニ増殖場の効果的な利活手法を検討します。関連事業：海の森回復技術開発試験（八戸、三厩、石持地先）、海の恵みを生み出す増殖場再生事業（八戸、東通、風間浦地先）、人工石材活用コンブ増殖試験（石持地先）、尻屋磯根資源調査。

4. その他

これまで技術開発を進めてきたエゴノリ、スジメ、チガイソ、アオワカメ、ガゴメなどの海藻種について、引き続き関係機関に採苗技術を指導してまいります。